

IndustraForm®を使用して、書類、エクセル、Eメールフォームを削減した 10 事例

[IndustraForm®](#) コンセプター 従来の書類、Eメールフォームやエクセルなどを、企業レベルのアプリケーションに変換し、運転、安全、保守、製造、IT 部門が一つのプラットフォーム上で業務を遂行出来ます。これによって、書類やエクセル、Eメールフォームなどへの依存を大幅に削減します。以下、IndustraForm®を使用して構築したアプリケーション 10 事例をご紹介します。

1

毎日の目標管理 (Daily Target Management/Board)

目標管理は、現代の製造現場において効率的な業務管理をする上で重要な要素となっています。多くの現場では、この重要な機能を管理するのに未だエクセルや紙の書類に依存しています。その結果、必要な情報を瞬時に入手するのは難しく、決まったワークフローや審査過程も無く、安易に間違ったデータを保存してしまう事もあり得ます。また、必要データや目標指数は一部のユーザーしか見られないことが多いのも現状です。Target Management [IndustraForm®](#) は、この重要な機能を提供することで、PDCA サイクルを機能させ、従業員が日常業務の目標達成のために一貫した作業手順を確実に実行出来るように支援し、上記の問題を解決します。

2

バッチ管理 (Batch Management)

現場では、バッチのオーダー状況や銘柄管理、リアルタイム監視、主要情報の記録・報告機能が必要です。Batch Management [IndustraForm®](#) はバッチ特定のニーズに合わせ、企業レベルでのカスタマイズ可能な柔軟性のある機能を提供し、審査可能な一貫した業務管理を可能にします。また、j5 のダッシュボード ([Dashboards](#)) を使用することによって、ハイレベルでの管理、バッチ銘柄計画・管理、[DCS/Data Historian](#) によるリアルタイム管理、シフト引継 ([Shift Handover](#)) やバッチ報告を可能にします。

3

作業依頼 (Work Requests)

機器保守担当へのトラブル報告は、運転部門から起案されることが通常で、これら作業依頼を運転ログ ([Operations Logbook](#)) から保安アプリケーション ([CMMS](#)) に送信することが必要不可欠です。また、CMMS がメンテナンスの状況や完了報告をすることも重要です。[IndustraForm®](#) は、現場のオペレータが機器保守の問題を報告出来るように、必要に応じて手動または自動で対応し、直ちに CMMS に情報を送信します。その後、CMMS は [IndustraForm®](#) と同期化しすべての情報を更新します。

4

製品移送 (Product/Oil Movements)

製品移動は、原材料の配送、工場・拠点間の内部輸送、および完成品のパイプラインやタンカへの移送などがあります。Product Movements [IndustraForm®](#) は、受注時での油送計画、リアルタイムでの製品移送状況監視・報告、出荷管理、請求書発行や売掛金回収まで、製品の動きを効率的に管理・設定することが出来る企業レベルのアプリケーションです。また、オペレータの業務ワークフローも設定・管理することが可能です。

5

船荷役管理 (Ship Loading / Unloading)

船荷の積み降ろしは、船舶と岸壁間の安全チェックや積み降ろし計画など、ステップバイステップの指示あるいはチェックリストを必要とするルーティン的な業務です。[IndustraForm®](#) は、チェックリスト項目や操作手順のカスタマイズを可能にし、効率的な特注プロセスを構築できます。シンガポール LNG ([Singapore LNG](#)) は、j5 [IndustraForm®](#) を使い、これらのプロセスを管理しています。[IndustraForm®](#) を使うことによって、独自のプロセスに簡単に変更することが出来ます。

6

パイプライン管理 (Pipeline Management)

パイプライン管理は、一貫した効率的な実行が求められる独特かつ多様な手順を必要とする一連のプロセスです。これらのプロセスには、パイプロケータ、ピグ管理、故障報告、パブリックイベント報告、通信障害などの記録が含まれます。Pipeline Management [IndustraForm®](#) を使い、記録すべき情報や実行必須のプロセス、そして重要なパラメータの定義をすることが可能です。情報は DCS やデータヒストリアンから発信されます。このアプリケーションはエンタープライズレベルで各イベントを正しく分類し、誰でも利用出来るようにします。

7

プラント異常・禁止・優先 (Plant Upsets / Inhibits / Overrides)

プラント責任者は、現在どれくらいの優先項目や禁止項目などが存在するかを認識し、プラント運転を継続することが安全かどうかを理解する必要があります。[IndustraForm®](#) は、ワークフローを使って、セキュリティのアクセス権を有したユーザーのみが、情報の入力・更新・レビュー、承認できることを確立します。また、IndustraForm® は、DCS やデータヒストリアンなどのリアルタイム・システムのデータを統合することも可能にします。

8

標準運転手順書 (Standard Operating Procedures)

サイトの安全性を高める為に、オペレータは承認された SOP 通りの手順を正確に実行する必要があります。紙ベースの手順書は長年にわたってオペレーションの主流でしたが、使い勝手、柔軟性、報告や審査の面での制限があり、決まった順序を実施することは出来ません。[IndustraForm®](#) SOP は、現場のオペレータが実行する手順のチェックリストを提供することが出来ます。j5 システムでは、オペレータが実施したすべての操作を記録することが出来ます。さらに、リアルタイムデータ及び資産情報を SOP にリンクさせることによって、リアルタイムの状況認識を改善します。

9

リスク分析 (Risk Analysis – JSA / TRA / ORA / ORM)

リスク分析・アセスメントは、危険が伴う日常業務に必要不可欠です。これを実行するには、[IndustraForm®](#) などの企業プラットフォームを使用することに大きな利点があります。作業安全分析 (JSA)、タスクリスク分析 (TRA)、運用リスク分析 (ORA) 及びオペレーショナル・リスク管理 (ORM) のフォームは、同じプラットフォーム上で作成・レビューされていないことが多く、不整合情報などで問題を招くことがあります。これらのフォームは、IndustraForm® を使用してエンタープライズアプリケーションに転換することができ、[j5 Permit to Work](#)、[j5 Event Manager](#)、及び [j5 Work Instructions](#) にリンクすることが出来ます。

10

ロックアウト・タグアウト (Lockout-tagout LOTO)

ロックアウト・タグアウトの手順は、機械又はシステムと、作業範囲の両方に特有のもので、ロックアウトまたはタグアウトを実施する為に必要なすべてのステップを詳述されています。LOTO のフォームは、装置に精通している人であれば誰でも記入できますが、該当する装置やシステムの LOTO の手順に対する適格な能力を有した承認者が確認・承認する必要があります。LOTO [IndustraForm®](#) は、確立された承認手続きにより、一貫性のある書類となります。



詳細については、<http://www.j5japan.com> をご参照下さい。